

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第3回）会議録

日 時	令和5年(2023年)7月21日(金)	9:00開会
		17:00閉会
場 所	鎌倉生涯学習センター 第5集会室	
出席者	石川委員 關根委員 河野委員 鈴木委員 小日山委員 佐藤委員 津田委員 伊藤委員 永瀬委員 芳賀委員	
事務局	太田教育指導課長 濱地指導主事 石坂指導主事 永井指導主事 齋藤指導主事 村田指導主事 竹下指導主事 赤山指導主事 露木指導主事 福森指導主事 荒川指導主事 岩田指導主事 松山社会教育主事	
次 第	1 開会 2 種目ごとの説明、協議等 3 閉会	

- 委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第3回を開催する。
本日の議事録署名委員を佐藤委員と芳賀委員に願うがよいか。
- 委員 よい。
- 委員長 資料の確認と本日の流れについて事務局から説明を願う。
- 事務局 資料についてだが、前回展示していた資料に加え「教科書展示会市民アンケート」について取りまとめたファイルを用意した。
教科書展示会は、鎌倉市教育委員会を会場に7月10日から7月16日までの7日間で一般市民を対象に教科書各種目見本本、趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示した展示会にいらした方の意見をそのまま綴じたものである。7日間で来場者は55名となった。
本日の協議の流れについてだが、まずは、社会、地図、音楽の「調査研究報告書（案）」のまとめを行ってから、各種目の検討に移る。
第2回に引き続き、残り8種目の検討をよろしく願うしたい。
その後、残りの国語、書写の「調査研究報告書」をまとめる作業となる。
- 委員長 事務局から説明があったが、そのような方向で種目ごと協議を進めようと思うがよろしいか。
- 委員 よい。
- 委員長 それでは、「調査研究報告書」について、事務局より説明願う。
- 事務局 お手元の資料は、前回協議が終了した5種目の「調査研究報告書（案）」を事務局でまとめたものである。内容については、「検討結果」の○◎の付け方、「総合評価」に発言の趣旨が記載されているかをご確認いただきたい。さらに、適切な用語が使われているか、字句の修正等についてもご検討いただきたい。
- 委員長 今、事務局から説明があったが、そのような方向で種目ごと報告書（案）の内容確認を進めようと思うがよろしいでしょうか。
（異議なし）
- 委員長 まず、社会の報告書について、いかがか。

委員 東京書籍について、「そのページの学習で内容、方法がわかりやすく明記されている」とあるが、「本時の学習活動がわかりやすく明記されている」という文書表記にする。

委員長 以上でよいか。

委員 よい

委員長 続いて、地図の報告書について、いかがか。

委員 東京書籍について、児童が主語になるような文書表記にする。

委員長 以上でよいか

委員 よい

委員長 続いて、音楽の報告書についていかがか。

委員 教育芸術社について、「既習内容を確認できる」という文書表記する。

委員長 以上でよいか。

委員 よい。

委員長 では、種目ごと協議に入る。
まず、算数の担当の方お願いします。

事務局 算数について説明する。
まず、東京書籍について説明する。
1年生の「はじめよう！さんすう」では、書き込みができる表現の基礎を培いやすいワークシート形式の別冊になっており、教科書、ノートの出し入れが不要で、一斉に進めやすく、学習の入門期として書き込みやすく、取り組みやすいものとなっている。
コンパスの使い方を学習できる動画が、右利き左利きと2パターンあり、学習の手助けとなっている。
高学年「学習のしあげ」のページの問題にチェックボックスが2つずつあり、繰り返し解けるようになっている。
各学年の問題文や文章が文節で改行されていて、児童が読みやすくなっている。

続いて、大日本図書について説明する。

足し算の導入の単元で、挿絵(写真)の手が「あわせる」という動作に即した動きとしてグラデーションであらわされている。

プログラミングを学ぶ際、コンピュータを使わない、日常生活で見かける題材を用い、プログラミング的思考を育むきっかけとしている。

巻末の復習問題の答えがQRコードで示され、児童が自分で学習を進められるようになっている。

ページの右上に常に単元名が書かれており、辞書の「ツメ」のような役割を果たしている。

続いて、学校図書について説明する。

4年生で学習する「単位量あたりの大きさ」や「割合」で、4マス関係表を用い、児童が考え方を整理しやすく、立式につなげやすくなっている。

単元ごとに「考え方モンスター」を用い、その単元で問題を解決するためにどのような見方考え方をすることが、わかりやすく工夫されている。また、上巻巻頭では前学年の、下巻巻末ではその学年で見つけた「考え方モンスター」が掲載され、異なる領域でも同じ見方・考え方に関連付けやすく工夫されている。

「算数パトロール隊」に「よくあるまちがい」「ここに注意」のコーナーがあり、児童が自ら学びを振り返りながら、つまづきに気づきやすくなっている。

AB版の大きなサイズで低学年にも扱いやすく、ページに余白があることで高学年でも内容を読み取りやすくなっている。

続いて、教育出版について説明します。

「たしかめ」で要点をおさえ、顔のマークで自分の学びを振り返ることができる。また、新たな単元に入る前には「どんな学習がはじまるかな？」で既習事項の復習ができる。

「なるほど!」「だったら!？」の投げかけで、児童が学習の要点を意識したり、考え方を理解して活用しようとする意欲に繋げている。

単元の導入でどんな学習が始まるのかを掴みやすい問題を示したあとに、本題に入っていく構成になっている。

カタカナにも読みがながふってあり、1年生の入門期の児童に配慮されている。

続いて、啓林館について説明します。

2年「べんりなものさし」3年「てんびん」4年「分度器」5年「円周測定マシン」など、巻末に児童が作成できる意欲を持って学習に取り組むことができる教材がある。

わくわくSDGsでは、学習したことを生かして、実生活につなげる視点を持てるよう課題が工夫されている。

事務局 外国への繋がりのあるキャラクターが登場するなど、多様性が意識されている。算数入門期である低学年の教科書の文字が大きく、文字を書きこみしやすくなっている。また、開きやすくなっている。

続いて、日本文教出版について説明する。

5年の小数と整数の位取り表が、一の位を基準に10倍と10分の1などが同じ色付けをされ、小数点の移動や桁を意識づけるものとなっている。

1年生の導入が、算数の学習課題がテーマの絵本となっており、児童に親しみやすく工夫されている。

学習のめあての赤色の下線や、まとめの囲みが赤色に色付けされており、目を引くものとなっている。

見開きの紙面右上に単元名が記載されており、児童が学習内容を意識することができるようになっている。

委員長 それでは質疑ないか。

委員 東京書籍のデジタルコンテンツにある理解物の操作や動画を見ることができるというのは東京書籍に特化したものか。

事務局 他にもQRコードのものはかなり多く用意されているが、特に東京書籍が充実している。

委員 教育出版の算数アニメと関連しているとはどういうことか。

事務局 どの学年も表紙のQRコードを読むと立体に見えるということ。表紙で遊べるようなQRコードとなっている。

委員長 他に質疑はないか。

委員 なし。

委員長 協議に入る。

委員 全部の教科書の中で、唯一学校図書だけがAB版の大きいサイズになっており、文字が見やすい。

委員 1年生の教科書だが、4者がスタートブックという形になっているが、東京書籍と啓林館は、最初字も読めない状況を想定して作られ見やすいと思った。その中でも、東京書籍が、ノートの指導ができてない中で、書き込みがしやすくなっており取り組みやすい。

委員 啓林館の巻末に分度器など教材がついているのはとても良い。なくした子ども用に2枚目もついている。これはすごいなと思った。

委員 5年の授業をしているときに4マス関係表を黒板に描いて授業をしていた。表を活用することで、割り算で解くのか、掛け算で解くのかという思考ができるのでいい手立てになると思う。学校図書の特徴だと思う。

委員 東京書籍にもQRコードがあるが、練習問題があり、解けて、答え合わせもできるので、欠席した子どもも活用できる。

委員 他社にもあるのか。

事務局 あるが、練習問題の量は東京書籍が圧倒的である。

委員 低学年だと上下に分かれているが、高学年になると1冊になる教科書が多いが、学校図書と東京書籍は高学年の5年生でも分冊になっているので子どもへの負担が減るものとなっている。

委員 大日本図書の構成の二つ目の「ひらめきシール」はノートに貼れるので、振り返りながら整理できるので良い。

委員 大日本図書について、ページの右上に単元名が書かれており、辞書の「ツメ」のような役割をしてわかりやすい。

委員 日本文教出版について、各学年の上巻末の「算数で使いたい見方・考え方」のところは、下敷きがわりに使えるようになっており、学習を見返しやすい。

委員 学校図書はプログラミング的思考を伸ばすまとめが巻末にあり、1年から6年まで系統性がある。

委員 教育出版は単元の導入で、「どんな学習が始まるかな」となっており、ここで扱っている内容が身近で、考えるきっかけとなるものが提示されている。算数について身近なところ

から考えを広げていける工夫がなされている。巻末も、発展的にやってみたいなどいうものが並べられている。

委員 学校図書で、「? (はてな)」でちゃんと導入していて、「? (はてな)」で終わっているので、なんで学んでいくのかがわかる構成がよい。

委員 啓林館で、ワクワクSDGsで、学習生活を生かして取り組めるものとなっている。

委員 日本文教出版について、各学年で学習したことがわかりやすくきれいにまとまっている。

委員長 まとめに入る。委員のご意見のなかでは、学校図書が◎で、東京書籍と教育出版は両方○で良いか。

委員 よい。

委員長 他に意見があるか。

委員 なし。

委員長 算数はこれで終了する。
続いて、道徳の担当の方お願いします。

事務局 道徳について説明する。
まず、東京書籍について説明する。
各教材に、二つの発問があり、一つ目はその教材の中で道徳的価値に迫ることができる発問、二つ目は自分を振り返る発問になっていて、分かりやすい。
リード文がないので、先入観を持たずに教材を読むことができ、児童の多様な考えを引き出しやすい。

全学年に小扉のつたいいじめ防止に関わる3つの「ユニット」、「『いじめ』について」「『いのち』について」「『じぶん』について」があり、いじめ問題や生命の尊さ、自分について考えることができるよう工夫されている。

巻末に自分の考えを可視化するさまざまな思考ツールが各学年に載っている。

続いて、教育出版について説明する。

「いじめをなくす」、「じょうほうと向き合う」というテーマの教材が全学年に入れてあり、いじめの問題や情報モラルの教材を重点的に載せており、発達段階に応じて考えを深められるようにしている。

「考えよう」の発問が二つずつ、「深めよう」の発問が一つずつ設定されているため、1時間の授業の中で扱いやすい発問の数である。

巻末に「学校でのマナー」や「人や自分との向き合い方」、「SDGs」「世界人権宣言」など、学年の発達段階に合わせた資料がついている。例えば6年生の最後の資料としては「世界人権宣言」が載っている。学年によって最後の付録が、発達段階に合わせて変わってきている。

コラムがついている教材があり、学習内容を補足したり、日常生活に生かしたりすることができる。黄色い縁がついている教材にはコラムがついている。

続いて、光村図書について説明する。

全学年にヨシタケシンスケ氏の「なんだろうなんだろう」があったり、大谷翔平選手を起用したりと、人気の作家やスポーツ選手を引用するなど、児童の興味関心をひく内容が多く取り入れられている。

結末を決めつけず、考えさせる終末となっている内容が多く、教員の導きではなく子どもたち自身に考えさせることで多面的・多角的に考える工夫がされている。どう考えるかを子供に委ねられている。

「とびら」「コツ」「みちあんない」が全学年の最初にあり、一年間の学びを見通すことができる。

特に1年生で、教材を精選することでページ数を抑え薄めに作っていたり、小学生が手に持ちやすいB5変形版を使用したりしている。

続いて、日本文教出版について説明する。

4～6年生に戦争を扱った題材がそれぞれ1つずつあり、平和の問題にも触れている。年間授業時数分、35時間分の教材とは別に巻末にプラスして3つずつ付録が掲載されている。

QRコードにワークシートや音声、動画などのデータが入っており充実している。

題名が「それじゃ、ダメじゃん」「ほんとうのことだけど……」など、一見しても内容が分からず、読んでみようという興味をひきやすいものになっている。

続いて、光文書院について説明する。

現代的な課題に触れさせるために、4年生の「里山」の話や5年生の「尾瀬」の話など環境問題が具体的な例示とともに教材に示されている。

- 事務局 アンパンマンやディズニー、ピーマンマンなどの人気キャラクターや漫画を題材にしており児童の興味をひくように工夫されている。
- 各教材の始めに登場人物が説明されており、児童の教材理解を助ける手立てとなっている。
- ユニバーサルデザインに配慮し、カラーバリアフリーを含む対応がされている。
- 続いて、学研について説明する。
- 題名の下に、内容項目の記載ではなく、児童が読んでみたくなるようなキーフレーズがあり、教材に興味を持たせるような工夫が見られる。
- 目次では「じょうほう」というマークで示されていたり、ページ数の上にオレンジ色の手をつないでいる「いじめ防止マーク」をつけてあったりして、情報の扱い方やいじめ問題など、今考えるべき話題の教材が充実している。
- 1年生の教科書に見開きで等身大の赤ちゃんの写真を使用したり、全学年で「生命の尊さ」の教材が3本ずつ載っていたりと、「いのち」をテーマとした題材についての興味関心を高める工夫がされている。
- さまざまな家族の状況がある中で、家族愛の内容が簡素で必要以上に家族構成を意識させることがなく、世界の事例も扱っており家族の形が色々であることを自然に示すことで、多様な家族構成に対応できるよう配慮されている。
- 一つ訂正がある。
- 教育出版の「内容」の下から2つ目の「QRコードを使用することで、心情メーターや思考ツールなどが活用できるため、授業の幅が広がる」についてだが、これは東京書籍の間違い。教育出版のQRコードは「まなびリンク」につながる。
- 委員長 削除ということによろしいか。
- 事務局 よい
- 委員長 それでは質疑のあるかた。
- 委員 なし。
- 委員長 協議に入る。
- 委員 G a k k e nの「内容」の三つ目について、題名の下に内容項目ではなく、児童が読んでみたくなるようなキーフレーズが面白いと思う。何を考えさせられるのだろうかではなく、

題名の下にフレーズが必ずあるので、どんな内容なんだろうと考えさせられるようになっている。

委員 光村図書の「話し合いのコツ」、「みちあんない」がとても良いと思う。
特に「話し合いのコツ」は、学年を追うごととてもよくまとまっている。別の教科や特活でも使えるようなかたちである。議論する道徳ということで、とても良いと思っている。

委員 東京書籍では、道徳の中で、考え方という思考ツールが載っているのがすごく良い。
心の中っていうのは子どももあまりよくわかっていない。視覚化する方法があると、道徳で学んだことが他でも使える。

委員 G a k k e n の「題名の下に内容項目ではなく、児童が読んでみたくなるような興味を引くフレーズ」というのが良い。そのフレーズがよく考えられているなど。
題名だけでは何が書いてあるのかなという興味が出にくいところを、一言があるだけで、感情を呼び覚まされるような意味で「なんだろう」と思えるような導入になっていると思う。

委員 東京書籍の「表記表現」のところで、「デジタルコンテンツが充実していて」というところで、ほぼ全部の「学ぶ」の下のところに載っているイメージ。他社は載っていたり載っていないなかったり。東京書籍は朗読、スライドなどが充実していて I C T との相性が良い。

委員 日文だけ道徳のノートがあるが調査員の考えは？

事務局 使いにくいことはないが、それがあつて使わなければならないというプレッシャーが大きいと感じるとの意見だった。

委員 光村図書だが、道徳の学び方として一番最初の教材に、学びのガイドがついている。そこから次の教材を学習するときにも、どのように読めばいいのか、気づくときには何を手掛かりにすればいいのか、話し合うときにはどうすればいいのか、学習の流れや、学習の方法がガイドされているというのが良い

委員 光村図書のヨシタケシンスケ氏の「なんだろうなんだろう」は、どれも考えさせられる内容で、この作品は図書室にもたくさん入っており、それが道徳の観点で考えられているのが良い。

委員 教育出版には、学びリンクの中に、その文章の簡単なまとまりがあり、物語の内容が把握できるようになっている。

また、表紙の絵が学年に合わせたものになっている。5年生だと田んぼに入っていたり、3年生だと理科で植物を育てていたり、1年生は黄色のランドセルを背負っていたり、その時の子どもたちの様子がそのまま描かれている。

委員 光文書院ですけれども、目次の後に、シンキングツールの紹介があり、「クラゲチャート」「フィッシュボーン」などがあり、考え方のモデルが紹介がされている。シンキングツールは、様々な場面で使うので、道徳で、子どもたちが経験してできることが良いと思う。

委員 日本文教出版と、光文書院には、海外の人たちとの関わりで、自分のクラスに外国人が来るという内容がある。海外にこういう人がいるよというのではなく、日常の中に多国籍の人がいるという前提が入っていることがあるのは良い。

委員 光村図書の方が丁寧に作られていると感じる。最初の1単元目に学び方のガイドや話し合いのコツなど載っているというのも、若い先生や不慣れな先生にも使いやすいのではなか。

委員 デジタルコンテンツには全てに朗読があるのは東京書籍だけか。

事務局 それぞれ朗読とスライドショーとワークシートの3セットが必ずついているのは東京書籍のみである。

他社は充実しているが、いくつかについているパターンか、スライドショーだけがついているパターン。

委員 東京書籍の充実度は高いと思う。

委員 東京書籍の5つのユニット分かれており、別の視点でのまとまりということで学べる。今の課題が意識しやすいのが良い。

委員 東京書籍の報告書には、いじめ防止にかかわるのが3つと書いてあるが。

事務局 小扉のことについて3つと書いてある。それにプラスして、「安心安全」と「情報モラル」で5つのユニットなる。

委員長 では、報告書を「いじめに関わる5つのユニット」という文書表記にする。

委員 日本文教出版について、巻末の「こんなところにも道徳」で、人に優しくやハサミ持ち方、マタニティマークなど、授業では実際の生活つながるものが掲載されている。

委員長 まとめに入る。委員のご意見のなかでは、光村図書が◎、東京書籍とG a k k e nが○で良いか。

委員 よい。

委員長 道徳はこれで終了する。
続いて、生活の担当の方お願いします。

事務局 生活について説明する。
低学年でもICTを活用できるような活動例を示し、学習内容に応じて適切に学習を展開できるよう工夫がされている。

「かつどうべんりてちょう」など、学習の中で生まれた疑問や児童の興味・関心に即して活用することができるよう工夫されている。

「どきどきわくわく1ねんせい」では、日常場面の写真が多く掲載され、入学後の生活をスムーズにスタートできるように考えられている。

パノラマページにより、植物の成長の様子が一目でわかるようになっており、成長や変化がわかりやすい。

続いて、大日本図書について説明する。

入学直後の児童でも無理なく活動できるように初めの方に気持ちマークがあり、そのマークで学習を振り返る習慣がつくことが期待される。

目、耳、鼻、手など着目点の明示やワークシートの例示で、多様な活動を展開できるよう工夫されている。

「私のおもちゃ」では、児童目線のイラストや身近な題材を用いた例示で興味・関心を引き出しやすい

QRコードにタイトルがあり、ダイレクトに学習で必要な情報だけが表示されたりするためわかりやすい。

続いて、学校図書について説明する。

単元ごとにまとめて配列されていて、連続性を重視している。

「がっこうたんけん」の単元で校内の把握から施設の役割の疑問点への気づき、働く人の仕事の内容を知り、自分たちの学校生活をより安全・快適で豊かにしてくれることに気付くよう、誌面や写真、イラストを数多く使用している。

「できるかな」では、家庭で行っている家事の写真と吹き出し、イラストの両方で紹介している

「ものしりノート」では、単元に関連する情報などが掲載されている。

続いて、教育出版について説明する。

「学びのポケット」では生活科の学習から、他教科および3年生以降の学習に繋がるよう示されている。

「作ってためして」の単元では、おもちゃの種類が多く、児童の関心をもつような問いかけやヒントが示されている。

SDGsについて考えられるような資料が添付されている。

教科書の中に、各単元で学習しようとする児童の目指すべき目標となるような例について掲載されている

続いて、光村図書について説明する。

児童の思考が促されるような投げかけが随所にあり、気づきの視点を高めることにつながる。

下巻末の辞典は、必要な情報がコンパクトにまとめられ使いやすい。

写真だけでなく、学習の内容や様子がわかるイラストが多く使われていてわかりやすく、親しみやすい。

上巻末の「きせつのなかまたち」の生き物や植物のカラーページは、防汚加工がされ、外に持ち出して実物と比較しながら学ぶことができる。

続いて、啓林館について説明する。

ダイナミックな写真が掲載され実物では共有しにくい事柄についても写真を使い共有することができる。

学びのヒントでは、活動の内容が具体的に書かれている。

記録の仕方やまとめ方、発表の方法など、授業の中で実践する際の例として活用することができる。

教科書の上下の長さが短く、低学年でも軽くて持ちやすい。

委員長 質疑、意見があるか。

委員 光村図書の防汚加工は何ページか？

事務局 上巻末の「きせつのなかまたち」のページである。

委員 光村図書、文字の量が少なく、1年生にも読みやすい作りになっている。

委員 東京書籍は、1年生のスタートカリキュラムを意識して作られている。

委員 東京書籍は、QRコードがたくさん載っていて、また、タブレット端末を使った学習の様子が随所に示されていて、良い。タブレットを使って写真をとっている様子や、モニターを使って発表する様子などを描いた挿絵が多く、低学年の児童にとって、どのようにタブレット端末を活用するかがよく分かるようになっている。系統立てて低学年からタブレットを活用できる内容である。

委員 光村図書だが、写真だけでなくイラストで学習の内容を示しているのがよい。それにより子どもがイメージしやすいようになっている。

委員 写真だと情報量が多すぎることもある。光村図書はシンプルに注目できるのがイラストのよいところだ。イラストも親しみやすいものでよい。学習の内容がイメージしやすい。

委員 東京書籍は、パノラマページがすごくよい。上巻の最後の図鑑には、それぞれの季節の生き物図鑑がある。そこでは、児童に身近な生き物が大きく綺麗な写真や絵で示されており、とても見やすい。

委員 動画や映像教材についても特に充実している。

委員 啓林館も、スタートブックプログラムがしっかりしている。教科書とは別に、「すたあとぶっく」という冊子でまとめられている。

委員 啓林館は、教科書の上下の長さが短く角が丸くなっており、低学年でも扱いやすい。軽く持ちやすい。

委員 大日本図書は、写真がとても大きくダイナミックだ。見開きのページにある質問が児童の興味を引くようなものになっている。

委員 ダンゴムシなど、生き物の写真も大きく写っていて、活動の様子が分かりやすい。

委員 大日本図書について、表紙についているQRコードを読み取ると、すぐに該当する資料を探し出し、取り出すことができる。子どもたちに、見せたいものをすぐに見せることができ便利である。

委員 光村図書について、巻末のページがよい。情報がコンパクトにまとめられている。「ひろがるせいかつじてん」はそれだけを切り離して持ち運べるようになっている。読み物としても面白い。

委員 学校図書は、巻末の「まなびかたずかん」では、児童が実際の生活場面で遭遇する場面について詳しく書かれている。場面ごと、困ったときにどうしたらよいかについて書かれており、学び方について学ぶことができる点がよい。

委員 学校図書の、「ものしりノート」はどこにあるのか。

事務局 様々なところに記載されている。発展的な内容が多い。

委員 学校図書の「ものしりノート」は、内容が充実している。動画もついている。とても興味深い。学習を終えた後にさらにその内容を深めていけるようになっている。

委員 教育出版の「わくわくすいっち」は、自分ではいい、いいえが選べ、児童の興味や関心を引くだけでなく、自己評価的な機能がある。振り返りもしやすいのではないかな。

委員 教育出版の下巻では、低学年の児童に向けてではあるが、SDGsについて細かく言及している。児童にSDGsを意識させるという意味においてよい。

委員 教育出版について、それぞれの単元名とともに学習する月が目次に書かれていて、児童が見通しを持って学習に取り組むことができる。

委員長 協議をまとめると東京書籍、大日本図書、光村図書に肯定的な意見が多い。その中でも特に東京書籍についてよい意見が多いが、東京書籍を◎でよいか。

委員 よい。

委員長 大日本図書と光村図書が○で良いか。

委員 よい

委員長 生活はこれで終了する。
続いて、理科の担当の方お願いします。

理科について説明する。

まず、東京書籍について説明する。

「問題」「観察・実験」「まとめ」と大きく3つに分かれて進められており、学びの流れが分かりやすくなっている。

「観察」の場面では、QRコードで取得できる「やり方」について説明がされている。動画やデジタルワークシートがある。

「思い出そう」では他教科や生活の中で関連する話題を取り上げている。単元末の「ふりかえろう」がノート風に記述されており、児童のノート作りの参考になるように示されている。

続いて、大日本図書について説明する。

QRコードから、そのページの学習に関連するNHK等の動画を見ることができる。児童の予想を妨げないように、実験の結果が必ず次の見開きのページにくるように配慮されている。

「結果」で終わりではなく、「考察」を行うなど、結果から考える活動を大切にする構成になっている。

単元の終わりに「学んだことを生かそう」のページがあり、実生活との関連を意識できるような問題が設定されている。

続いて、学校図書について説明する。

自社作成動画、「NHK for school」、他社作成動画へのリンクなど、QRコードが充実している。これらをタブレット端末で読み取ることで実験の様子などが映像で確認できたり、問題を解くことができたりなど工夫されている。

どの単元も「問題をみつけよう」「問題」「観察・実験」「わかったこと」が大きくはつきりと示され、学習の流れがわかりやすくなっているため、児童が主体的に学習を進められる。

「ふりかえろう」では、タブレット端末でQRコードを読み取ることで、教科書にある振り返りの問題をデジタル上で回答することができるようになるなど、興味を持って問題に取り組める工夫がされている。

横幅があり、見やすいA B判であり、机上で開いたり持ち運びをしたりしやすいだけでなく、青を基調とした配色で、落ち着いて学習できる工夫がされている。

続いて、教育出版について説明する。

単元のはじめに「見つけよう」という児童の体験的な活動を設定し、主体的な学習を促す工夫がされている。

キャラクターで児童の共通の体験や対話を多く表現することで、児童自ら問題をつくりやすいよう促したり、キャラクターの言葉を比較することにより、児童自身が学習前後を意識できるよう工夫されている。

「たしかめよう」では、学習の理解を確かめるための問題が設定されており、児童がノートに問題を書き写したり、教師が学習プリントを用意しなくても簡単に答えを書き込むことができる。

文章の文字が大きく設定されている。

続いて、啓林館について説明する。

「問題」「予想と計画」「実験」「結果」「考察しよう」「まとめ」がページの左側に示されており、学習の流れが明確になっている。

単元の終わりの「ふりかえろう まとめノート」では、学習したことをイラストや矢印を使い、簡潔でわかりやすいノートのまとめ方が示されている。

巻末では、学年に合わせ、ものづくりの活動を紹介している。

「自由研究」や「資料室」など、自由研究の手引きになるページが設定され、主体的な学習活動を促している。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 協議に入る。

委員 東京書籍について、単元末の振り返りが良い。3年の昆虫の体の作りについて、振り返りノートをイラストで見るとわかりやすい。他社は写真だが、子供が描いた絵の方が、まとめ方などもわかりやすい。実験の写真についても、注目するポイントがわかりやすい。また教科書が大きく、余裕ある作りで圧迫感がない。

委員 東京書籍について、「ふりかえろう」のノート風な書き方、イラストで示されているのは、ポイントを掴みやすく、分かりやすい。

委員 東京書籍について、どの会社も観察・実験・まとめという流れを意識させるつくりになっているが、東京書籍は、「問題」「観察・実験」「まとめ」と大きく3つに分類されており、帯で表示され、流れが分かりやすい。ただ、「考察」の扱いが小さくどうなのか。

委員 教育出版について、字が濃く太くユニバーサルデザインを使用していて読みやすい。また、「問題」「実験」「結論」のレイアウトが写真やイラストでわかりやすく、パッと見て見やすくてわかりやすい。視覚で問題解決学習の展開が意識できるようにレイアウトが工夫されている。

委員 教育出版は、前学年で学んだことが最初に記載され新たな学習に取り組みやすくなっている。

委員 学校図書では、単元のはじめに「つきたい力」を意識できるよう「できるようになりたい」が設定されており、つきたい力ごとにキャラクターで表現しているのは、児童にとっても指導する側にとってもつきたい力が明確になっていて良い。

委員 学校図書は、さらに「つきたい力」に「できるようになりたい」と「できるようになった」とが確認できるようセットになっている構成であることも良い。

委員 学校図書は、目次のQRコードから、デジタルコンテンツが一括で見ることができる。指導する立場では、このQRコードを読み取っておけば授業のなかで好きなところを見ることができる。また、QRコードから、実験の様子が映像で確認できたり、問題が解くことができたりなど工夫されている。

委員 学校図書は、青を基調としていて落ち着いて学習ができるのは確かにそうだ。

委員 学校図書の「ふりかえろう」では、ふりかえりの問題をデジタル上で子どもたちにとって取り組みやすい。

委員 啓林館について、友達の会話の中で、最終的にまとめにつながる部分にアンダーラインが引いてあり、それが最終的にまとめにつながっている。単元終わりの「ふりかえろうまとめノート」は手書き風でわかりやすく、子どもたちが学びやすい。

委員 啓林館は、写真やイラストなど知識を深める資料が多く載せられている。

委員 大日本図書は、どの単元も見開きで大きく写真があり意欲的に学べる。子どもの興味を惹き、気づきを促している。

委員 問いを立てて調べていく流れはどの会社も同じだが、大日本図書は「問いを見つける」「問いをつかむ」という段階で、誘導するような問いが書いていない。他社は見つける、つかむ

- 委員 段階でほぼ問いと同じようになっているように思う。大日本図書は学びの入り口が広く、課題を設定する段階で意識したしたつくりとなっている。
- 委員長 では、ここでまとめに入る。委員のご意見のなかでは、東京書籍、学校図書、教育出版の3社かと思う。その中でも意見が出ていたのが学校図書が◎、東京書籍と教育出版が○でよいか。
- 委員 よい。
- 委員長 理科はこれで終了する。
続いて、英語の担当の方お願いします。
- 事務局 英語について説明する。
まず、東京書籍について説明する。
アルファベットの練習のページが充実しており、身近なものからアルファベットを探すなど児童の興味関心をひくことができる。
別冊の「My Picture Dictionary」には「CAN-DOの樹」のコーナーがあり、児童が色を塗って達成感を得ながら学習を進めることができる。
巻末カードを貼ったり、置いたりすることで完成にむかえる活動があり、書く、話すことに苦手意識をもつ児童にも使いやすい構成となっている。
デジタル教材における音声や映像は質が高く、児童の興味関心をひきやすい。
- 続いて、開隆堂出版について説明する。
豊かな人間関係を築く力を向上させることができるグループ活動・ゲーム活動が多く設定されており、指導者が児童や学級の状況に合わせて活用できるような活動が豊富に設けられている。
「Sound Box」のコーナーではアブクド読みが活かされていて、文字の音に親しめる工夫がなされており、発音の練習が豊富である。
教科書に直接鉛筆で書きやすく、消しやすい用紙が使用されており、ゆとりある紙面、落ち着いた配色など、ユニバーサルデザインへの配慮された装丁となっている。
一目で活動内容を把握することができるよう工夫された、各活動における4技能5領域のマークや、教科横断的な視点で児童の実態に応じた授業を展開できるような他教科との関連マークが載っていて、学習の内容を確認したり、より豊かな学びにつなげることができる。
- 続いて、三省堂について説明する。

別冊の「My Dictionary」にあるQRコードから音声聞け、クイズや単語ゲームができる様な工夫がされている。

「世界のおはなし」のコーナーでは世界の文学を通して異文化に触れることができる。児童の実態に合わせて学習活動の幅を持ちやすい構成になっている。

ミニ情報のコーナーでは、英語に関する表現や知識を身につけることができる。

続いて、教育出版について説明する。

ペアワークやグループワークなどの「Activity」がレッスンの中に多く設定されていて、話す活動が豊富に設けられている。

導入では、テーマに対してどのようなことを伝えたいかを書く「Think」のコーナーがあり、ゴールを意識しながら学習に臨むことができる。

教科書のサイズは机に置いて学習しやすいサイズとなっている。

各活動に4技能のマークが載っていて学習の内容を確認できるようになっている。

続いて、光村図書について説明する。

巻末に「Alphabet Time」が設けられていて、英単語や英文を書くことに慣れることができる。

「Picture Dictionary」のデジタル版ではジャンル毎に聞きたい単語の発音をすぐに聞くことができる。

別冊「Picture Dictionary」が教科書の巻末に付属しており、1冊として取り外すこともできて使いやすい。

目次や各ページに到達点や5領域のマークが載っていて、学習の内容を確認することができる。

続いて、啓林館について説明する。

「Let's Read and Write」のコーナーをはじめクイズ形式でのリスニング活動が多く設けられている。

チャンツのコーナーでは英文が具体的に書かれていて、チャンツを指導しやすくなっている。

「Did you know?」のコーナーではSDGsや社会問題など様々な題材を扱っている。

色使いやイラストのタッチが優しく、文字のフォントについてもユニバーサルデザインに配慮されている。以上

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 協議に入る。
ご意見はあるか。

委員 鎌倉の小学生達は聞くだけの活動ではなく、話す聞く活動の方が飽きないと思うので、開隆堂出版が良いと考える。

大体どの教科書も沿って進めば良いようにはなっている点では、どの教科書も変わらないが、開隆堂出版と教育出版が割と話す活動まで踏み込んだ内容が多い印象に思う。

その中でも、開隆堂出版のアプリなど発音、音声に力を入れている点がある。小学校の初期の英語の学習者には、音や音声に慣れていくことは、繰り返し必要なトレーニングであり、そこを重視しているのは開隆堂出版である。

委員 映像コンテンツ、デジタル教科書を利用する先生が多いので、映像の質が高いと子どもたちが興味を持ち、惹きつけられる。東京書籍の映像コンテンツは質が高い。

東京書籍と光村図書は、Picture Dictionaryが別冊についており、使い勝手が良い。

三省堂の世界の話の掲載も良い。小学生には難しいという理由で担当者が扱っていないところも多いが、そんなことはなく、読む必然性がある方が読む意味が出てくる。鎌倉の子は十分やれると思うので、三省堂の世界の話のコーナーは良い。

委員 光村図書は英語の文章量が多いように感じるがいかがか。

委員 そんなに多いとは思わない。

委員 東京書籍の道徳や他教科との関連のページを教えて欲しい。

事務局 他教科については、6年生の48ページや60ページ、5年生の50ページに社会など他教科との関連があり、横断的な視点が見られる。

委員 外国語をやる上で、小学生がなぜ外国語をやらなくてはいけないのかとなる時があって、東京書籍は他の教科でも使うという外国語は色々なところで使えるんだというところが良いと子どもにとって良いと感じた。

委員 他教科との関係は良いが、外国語を学習する理由にはならない。

- 委員 確かにそうですね。
- 委員 内容が理解に関係するだけ。
- 委員 なんでの答えにはならないが、教科横断的な視点が持てる。
- 委員 開隆堂出版の「c a n d o チェック」の一覧は、顔のマークがあり3段階で自己評価できるようになっている。自分の成長や課題が丁寧にチェックできるようになっており、できたことが目に見えて分かるのは良い。
- 委員 外国語はノートをあまり買わないので、開隆堂出版は直接書いたり、消したり、書きやすくしてよい。
- 委員 光村図書について、調査委員の報告書では、P i c t u r e s D i c t i o n a r y のデジタル版では、ジャンルごとの聞きたい単語の発音が聞きやすいとあるが、光村図書に特化していることか。
- 事務局 他にもあるが、ジャンルごとにしっかり分かれて使いやすいのは、特徴のひとつである。ただ、この会社だけではない。
- 委員 光村図書について、ことばについて考えようという国語とのリンクでは、日本語と英語の違いや日本語でも英語でも人と人を繋ぐのはことばであり、ことばの捉え方が人と人がコミュニケーションをとる大事なツールであることや日本語と英語のニュアンスの違いなど、言葉のニュアンスを丁寧に扱っている点が良い。
- 委員長 調査員の意見にはないが、ことばのニュアンスを丁寧に扱っていることは、報告書に挙げていただきたい。
- 委員 三省堂について、「MY D I C T I O N A R Y」が別冊になっている点が良い。授業を見ていると、言いたい単語が分からない子、文章を書けない子にとっては手助けになる。
- 委員 教育出版について、巻末のシールやワークシートは活用しやすいように思う。また、巻末のシールなどの付録は、子ども興味関心をひく。
- 委員 啓林館について、英語で注文するなど、お店での実際の場面が載っているのがよい。

- 委員 必然性があり、子どもが興味を持てるようになっている。
- 委員 啓林館について、リスニング活動の多さが話題になったが、他社に比べて多いのか。
- 事務局 啓林館について、チャンツが英文であることなど、聞く部分が充実はしている。
- 委員 「D i d Y o u K n o w ?」のコーナーでSDGsを扱っており評価できるのではない
か。
- 委員 啓林館は、他の国の言語の紹介があり異文化理解につながる。英語以外の文化を学ぶ内
容が取り込まれているのも啓林館の特徴である。
- 委員 英語以外の韓国語や中国語なども比べている。
- 委員 先ほどのSDGsもだが、文化を学ぶようなことが盛り込まれていることも特質すべき
ところである。
- 委員長 ここまでで、意見としては東京書籍、開隆堂出版、光村図書の3者の意見が多いように
思う。この3者から絞る形で良いですか。
- 委員 よい。
- 委員長 では、この3者の中で特に鎌倉の子どもたちにあっていると考えるのは、どこか。
- 委員 先ほど委員から意見があった鎌倉の子どもたちには話すことが多い開隆堂が良いかと思
う。
- 委員長 では、よろしいか。調査委員も開隆堂出版が良いのではという意見だった。話す活動が
多い開隆堂出版を◎、東京書籍と光村図書を○でよろしいですか。
- 委員 よい。
- 委員長 英語はこれで終了する。
続いて、保健の担当の方お願いします。

保健について説明する。

まず、東京書籍について説明する。

各単元各項目が「ステップ1」～「ステップ4」までの4段階で構成され、学習の流れがつかみやすくなっている。

「単元の初めのページに教科横断的学びに対応するために、社会科、算数科、理科、家庭科、道徳科等の他教科との連携ポイントが記載されている。

教科書をノートとして活用できるようメモ書きをする欄が多数設けられており、児童が考えや意見をまとめやすくなっている。

各学年、学習指導要領に示された内容が基本的に1項目、1単位時間4ページで構成されている。

続いて、大日本図書について説明する。

章のはじめに簡単な運動やキャラクター探し等ゲーム要素を取り入れて、単元の内容に興味・関心をもてるようにしている。

「もっと知りたい!」では、各単元の発展内容や中学進学後に学ぶ時期が記載されている。

「はってん」では、保健とSDGsとの関連を示し、SDGsを実現するために、学習したことを生活に活かすことの大切さに触れている。

導入時に必要な部分だけを見られるようにおり込みカードが活用されている。

続いて、大修館書店について説明する。

「ほけんクイズにトライ」では、QRコードを読み取り、学習した内容を1時間につき4問、正解すると次の問題へと進める形で楽しく復習できるようになっている。

3年生だけでなく、6年生でもスマートフォンやSNSといった内容に触れ、依存性の怖さを伝える内容が記載されている。

運動領域の内容を保健領域で生かせるように繋がりを持たせて体育と健康が密接に関係しているということを具体的に理解することができるようになっている。

1時間2ページの構成を基本としており、教材の分量が適量になるようになっている。

続いて、文教社について説明する。

各学年の最後に「宣言」をするページがあり、学習したことをより自分ごととして考え、実践に繋げていくことができるようになっている。

6年生「地域の保健活動」では、地域の様々な保健活動について詳しく記載されており、地域での健康を守る活動について広く理解できるようになっている。

QRコードでリンク先にアクセスでき、自作の動画等、学習の充実を図れるようになっている。

多種多様の資料が豊富に添付されている。

続いて、光文書院について説明する。

「インターネットを使う時の注意」や「インターネットと依存」として、SNSやネットへの依存についての説明等、今日的な課題についての内容が学年を超えて繰り返し記載されている。

毎時間の最後に自分の生活にあてはめて考える活動があり、健康課題を発見し、習得した知識を活用して考える活動とともに、課題解決をしながら児童の実生活に活かせるような工夫がされている。

理解を深める資料や多くの自社制作の動画がQRコードから手軽にアクセスできるようになっており学習を深める工夫がされている。

各章の扉ページでは、学習へ導く問いかけが、4コママンガで示され、児童が学習へ関心をもちやすくしている。

続いて、G a k k e nについて説明する。

「つなぐ 体育とつなげる」では、運動領域との関連を明示し、健康の保持増進と体力の向上に繋げている。

学習内容を深めるために、「かがくの目」では、肉眼では見えない病原体や体の部位の比較等、児童がイメージしやすくなっており児童の興味・関心を高められるよう工夫されている。

1時間の学習が「ふり返る」「けいけんをもとに話し合う」「学びを生かす」で構成され、学習を進めやすくなっている。

「書くこと、書けること」を重視し、児童が思考・判断・表現したことを書き残すことができるよう、記入するスペースが十分に確保されている。

委員長 それでは質疑はあるか。

委員 光文書院の内容の6つめ、「自社制作の動画」とは、どのようなものか。

事務局 光文書院のQRの動画については、各項目ごとに動画資料があつて自社制作になっていて、ほかのどこかに飛ぶという形ではない。
他社も動画はあるが、いちばん多い。

委員 G a k k e nの「かがくの目」、とは何年生にあるのか。

事務局 土の学年にもある。例えば3～4年生だと、19ページきちんと洗えているか、だったり22ページのように実際に見えないけど科学の力を使って「見える化」している。3～4年ではあと31ページ。5～6年だと55ページ等。

委員長 では、意見を願います。

事務局 「保健の教科書ってこんなに字が多かったっけ」と思っているが、その中でも東京書籍とGakkenは構成・分量にあるように、書き込みができる箇所が多いせいか、それほど字の圧迫感がないと感じる。書くところが多い。

委員 光文書院について、SNS・ネット依存というのがあって、確かに4年生のところに載っていて、「食事のときは見ない」などいいなと思う。5～6年にもあるのか。

事務局 ある。

委員 大修館書店でもSNSや依存症について触れられている。インターネットのことについては伝えたいと思っているが、高学年で、4つに分類されてわかりやすくまとめられていてよい。

委員 光文書院の構成・分量について「1時間を見開き1ページで記載し学習の流れが一目でわかるようになっている」とあり、「見つけよう」「調べよう」があって、何をやるページかがわかりやすくよい。

委員 光文書院は、赤ちゃんの手と足の写真が載っていてよい。ほかの社は手だけ載っている。自分の成長を振り返ることができて、しかも1歳のときのだから、今の自分との差も感じられる。

委員 大修館書店の構成・分量については、中学校と同じつくりが似ている。イラストも大きくてわかりやすい。ちょっとした書き込みもできるところもよい。

委員 大日本図書の内容の4年生で自分自身の手の大きさを直接描き込めるので比較がしやすい。他者は重ねるだけになっている。

委員長 比較しやすくなっているところか。今大修館の意見が多く出ている。光文も2つ出ているが、どうか。

委員 G a k k e nの構成・分量で、「あじろ綴じ」とはどのようなものか。また、G a k k e nと東京書籍はがっしりしたつくりになっていて、やはり2年間使うということで頑丈に作られているほうがいいのかなど。平綴じと何が違うのかな、きっと違うのだろうと。

事務局 「平綴じ」はホチキスで綴じたもので、「あじろ綴じ」はボンドで綴じたもの。「PURあじろ綴じ」はより強力な接着剤で綴じたもの。他の教科書と大きく違うのはやはり2年間使うということで、それぞれ工夫されている。

委員 内容と言うより、光文書院は中学校みたいに字が多いなど。小学生はもう少し絵が多くなくてもいいのか。G a k k e nも字が多い。

委員 光文書院は、目次のところのデジタル、というQRコードを読むと、動画をまとめて見ることができて便利である。動画に飛ぶだけではなく、自社制作というのはいい。

委員 G a k k e nの「かがくの目」は深めるのにちょうどいい。付随して「ほけんのはこ」は授業の中で扱いやすい。

委員 G a k k e nいろんな会社で心の健康とか思春期について扱っているが、ストレス解消とか気持ちのありかたが載っているが、G a k k e nだけはいじめに言及している。人との距離の取り方はほかにも載っているが「こういうのいじめだよ」と載っているのはG a k k e nだけかと思う。

委員 G a k k e nの報告書にある「5年生「心の発達」では、イラストを使って描いている」とあるが、いじめに特化して載っていきおり、現代の子どもの心の悩みについてより具体的に書かれているところがよい。

委員 光文書院は、構成・分量のところ、4コマ漫画で確かに子どもはひきつけられると思う。「お勉強」という感じよりいい。

委員 東京書籍はあじろ綴じのことが出て、大日本は4年生の体の発達のところで手を描くことについて意見があったが、ほかはどうか。

委員 大日本図書の「折りこみカード」について、導入のページに重ねて使うと、導入の言葉だけが見えるようになって児童が自分で考えられるようになっていくところがよい。

委員 大日本図書の「はってん」では、保健とSDGsの関連して、学習したことを生活にかけるようになっている。

委員 文教社について、各学年の最後に「宣言」をするページがあり、学んだことを自分の生活に活かしていけるようになっている。

委員 実際の写真が多く、見開きで大きい写真で掲載されており、子どもがイメージを持ちやすい。

委員長 では、まとめに入る。光文書院を◎、G a k k e nと大修館書店が○よいか。

委員 よい。

委員長 では、保健は以上ということでお願ひする。
続いて、図画工作の担当の方お願ひする。

事務局 図画工作について説明する。

まず、開隆堂出版について説明する。

全ての題材において「育てたい3つの力」をキャラクターで表したり、中心となるめあてを赤字と下線で強調したりされています。また、中心となるめあてについては、キャラクターが児童に学習のポイントや造形的な見方・考え方を投げかけるようにアドバイスしていて、児童が主体的に取り組める工夫がされている。

巻末の「ひらめきショートチャレンジ」では、児童の豊かな発想や構想の力が引き出されるような題材が紹介されており、造形的な見方や考え方を知り、表現活動に生かせる工夫がある。

それぞれの本のタイトルには、学年を通じた学びのめあてになるような言葉が使われている。巻頭の見開きにはタイトルに基づくメッセージや作家との活動が掲載されており、児童が社会と図工の学びのつながりを感じ、興味を引き出す工夫がある。

全ての人に情報が正確に伝わるように、コントラストや背景色に配慮したカラーユニバーサルデザインやユニバーサルフォントが使われている。

次に、日本文教出版について説明します。

ICTを活用した作品作りの例を多く取り上げている。

美術館を取り上げたり、美術作品を取り上げたりするなど、鑑賞教材が多く掲載されている。

巻末の「材料と用具のひきだし」では、用具の説明が写真やイラストで示されていて、安全に使う工夫がわかりやすくまとめられている。

題材名や指導の言葉が各学年の発達段階を考慮し、児童の興味や関心が引き出される工夫がある。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 協議に入る。

委員 開隆堂出版について、指導する用具、材料がページの左上に具体的に示されている。指導する方が見通しを持って、材料の準備などができる。

委員 日本文教出版は、写真が多くてわかりやすい。タブレットを使わずに、教科書単体で使用するなら日本文教出版が詳しい。

委員 開隆堂出版について、巻末の「ひらめきショートチャレンジ」は発想が広がるようなヒントがわかりやすく載っている。

委員 日本文教出版は、美術館を取り上げたり美術館作品を取り上げたりと、鑑賞教材が多く作品に出会える回数が多い。

委員 日本文教出版の裏表紙のQRコードから、全学年の作品が見られることにより、アイデアが浮かばない子に対して、創作の幅を広げる手立てとなる。

委員 開隆堂出版は、育てたい力をキャラクターで表し、子どもが主体的に取り組めるよう工夫されている。

委員 日本文教出版は、「図工体操」など動画があって新しく、やってみたいと思う。

委員 自分自身、絵を描くのが苦手なので、日本文教出版のほうがたくさん作品が載っているので手助けとなる。鑑賞のページもくわしい。

委員 日本文教出版の方が写真などオシャレ。教科書自体のデザイン性に優れている。図画工作なのでデザイン性も重要なのでは。

委員 日本文教出版の方が意見が多いようだ。見直しをもって指導できるので今使っている教科書を選びがちだが、新しいものが入ってきたり、QRでいろいろな作品を観られたりするのには良いのではというご意見が多いようだ。日本文教出版を◎でいいか。

委員 まとめに入る。日本文教出版を◎、開隆堂出版を○でいいか。

委員 よい

委員長 では、図画工作は以上ということをお願いする。
続いて、家庭の担当の方をお願いする。

事務局 家庭について説明する。

まず、東京書籍について説明する。

各単元の随所に「いつも確かめよう」というコーナーがあり、基礎、基本的な知識や技能について、実物大の作業場面の写真によって示されており、分かりやすい。

じゃがいもの皮むきについて解説している動画では、じゃがいもの芽や緑色の部分に有害な成分が含まれているので取り除く必要があることなど、細かい部分まで丁寧にまとめている。

SDGsについては、「持続可能な社会へ物やお金の使い方」と銘打ち、SDGsのテーマと自分の生活を関連付けて単元を構成しているため、世界的な課題を自分事として捉えることができる。

「生活を変えるチャンス！」というコーナーでは、家庭や地域の生活に関する課題を見つけ、解決に向けて実践に取り組む流れや方法が分かりやすく記載されている。

続いて、開隆堂出版について説明します。

食文化については、日本のものと世界のものが並んで示されており、自国の食文化について理解を深めながら、他国の文化を尊重する心情を養うことができるようになっている。

「安全と衛生に気をつけよう」では、安全と防災についてQ&Aで載せられており、学習している内容について「なぜか」をじっくり考えることができる。

「買い物で困った時、どうすればよい？」では、児童が買い物をするときにおこりやすいトラブルについて掲載されており、児童が自身の経験と結びつけて気づきや思考を引き出すことができる。

フードロスやごみの削減といった環境に関する内容と家庭科の学習内容とが関連させて取り上げられている。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 協議に入る。

委員 開隆堂出版のほうが、消費についてトラブルの際、どのようにしたら良いのか具体的に書いてある。さらに豆知識のような発展が各ページにある。エシカル消費について記述があるのは開隆堂出版だけ。エシカル消費は鎌倉市が進めているものなので開隆堂出版が良いのではないか。

委員 東京書籍の「生活を変えるチャンス」というネーミングにしていることについては、調査員からはどのような意見だったか。

事務局 長期休業の前にこの単元が来るようになっていて、1学期に学んだことを休み中にやってみようというように、実際に現場で使用するイメージがわく点も調査員には高評価だった。

委員 開隆堂出版の「伝統」というページについて、ふろしきもでている。このようなものは家庭で伝承されないことなので、学校教育で扱うことには意味があるのでは。

委員 食文化だけでなく、衣食住の全てに関して幅広く伝統文化が取り上げられているのはいいことではないか。

委員長 では、まとめに入る。東京書籍が◎ 開隆堂出版が○で良いか。

委員 よい。

委員長 全種目協議終了いたしました。
本日協議した報告書（案）の確認方法について事務局から説明をお願いします。

事務局 報告書（案）の取りまとめについては事務局行い、最終的な確認や文言の調整については事務局並びに委員長と副委員長にお任せいただきたい。

委員長 事務局から報告書（案）の取りまとめと最終確認について提案があったが、よろしいか。

委員 異議なし。

委員長 それでは、以上をもちまして令和6年度(2024年度)使用教科用図書採択検討委員会第3回を閉会する。

会議録署名

令和6年度(2024年度)使用教科用図書採択検討委員会

委員長 (石川 真喜)

会議録署名委員 (佐藤 寛二)

会議録署名委員 (芳賀 香織)